

2016 年度 デザイン工学部  
自己点検・評価報告書

2017 年 3 月 31 日

## 第 1 章 理念・目的

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

### 評価の視点

- 理念・目的の明確化
- 実績や資源からみた理念・目的の適切性
- 個性化への対応

### 1. 現状の説明

デザイン工学部は学部理念として、工学と人間の感性および社会との調和・融合を図り、創造的なものづくり能力を素養にもつ実践的人材育成を目指し、デザインを追求する実践教育の徹底を掲げている。21世紀の社会と産業は、幅広い工学の素養や技術をバックグラウンドに持ち、同時に人の感性に応えるものづくりができる人材、つまり、コンセプトが明確になっていない段階からアイデアを生み出し、リーダーシップをもって個々の要求を整理・統合化し、ものづくりができる能力が必要とされるが、そのようなデザイン能力を高めるために、芝浦という都心立地を最大限活用した、「社会および産業界と密に連携を取った体験学習」を通じてデザインを追求する実践教育を徹底する。

### 2. 点検・評価

#### ① 効果が上がっている事項

デザイン工学部は開設以来、常に高い入試競争率と堅実な就職実績を挙げてきた。就職においては、完成年度以降常に9割以上の就職率を記録しており、2015年度には98.5%と、全学平均(97.1%)を超える高い数字を収めた。製造業を中心に、卸売・小売業、サービス業など、旧来の工学部の枠組みを超えて、製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる企業のデザイン、企画、販売、製造部門に学生を送り出してきた。これはデザイン工学部の理念が社会に評価され、社会が求めるものづくり人材の育成という目標が着実に達成されていることの証である。

### 3. 将来に向けた発展方策

---

2017年度以降のデザイン工学部の新しい体制への周知を図るために、出張授業や高校訪問といった学外への働きかけを一層強化してゆく。

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

#### 評価の視点

- 構成員に対する周知方法と有効性
- 社会への公表方法

### 1. 現状の説明

大学 WEB サイトに掲載することで社会に公表する一方【資料 1-2-1】、所属学生に対しては入学時に配布する学修の手引き【資料 1-2-2】に記載し、ガイダンス等を通じて周知を図っている。また、オープンキャンパスの際の模擬授業や全学共通科目「芝浦工大通論」においても説明されているほか、高校訪問や出張授業など、様々な機会を通じてデザイン工学部の理念と目的の周知を計っている。

### 2. 点検・評価

#### 〈デザイン工学部〉

---

##### ① 効果が上がっている事項

所属学生へはガイダンス等、様々な機会を通じて周知が図られている。

### 4. 根拠資料

#### （デザイン工学部）

- 資料 1-2-1：大学 WEB サイト／学部・大学院／デザイン工学部紹介・概要  
URL: [http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering\\_and\\_design/](http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering_and_design/)
- 資料 1-2-2：学修の手引き（デザイン工学部）

(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

## 1. 現状の説明

デザイン工学部では、教授会における学則改訂を審議する際や学部の将来を検討する委員会等の席において、理念・目的が社会の変化や教育体制の改革に対応しているかを検証している。特に 2015 年度に新デザイン工学部カリキュラムを準備するための委員会が発足して以降、教育理念と教育目標の整合性を含め、様々な視点から理念と目的の適切性について検討を加えてきた。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

2017 年度にスタート予定の新カリキュラムを検討するに当たり、教授会委員会や新デザイン工学部準備委員会を中心に現行の理念を踏まえた新しい教育達成目標が提案され、学部長室会議や学科会議における確認・検討の上で承認された。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ② 改善すべき事項

新カリキュラムスタート後も、継続的に検討を続けることが必要である。

## 第3章 教員・教員組織

(1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。

### 評価の視点

- 教員に求める能力・資質等の明確化
- 教員構成の明確化
- 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化

### 1. 現状の説明

デザイン工学部では、豊富な実務経験を有し、デザイン工学の幅広い分野での実践的教育に対応できる教員を中心に教員組織が編成されている。教員の構成については、3領域4分野のカリキュラム設計に適合するよう、各領域分野の教員数および各教員の専門分野はそれぞれの領域分野の学生定員のバランスを考慮し決定されている。

デザイン工学部には学科は一学科（デザイン工学科）のみ存在するが、学科内の3領域4分野がそれぞれのカリキュラムに基づいて指導に当たっている。この領域・分野の間での連携や調整をおこなうため、毎月1回程度、学部長、学部長補佐1名と3領域4分野の代表である領域分野幹事と共通系幹事による領域・分野幹事会議を開催している。学部長室は、学部長と学部長補佐に加え、デザイン工学部所属の学長補佐1名と各領域幹事が兼務する学部長室員4名から構成され、事務職員を加えて毎月1回程度会議を開催し、学部運営上の課題解決や中長期的な運営方針を議論している。教授会は8月を除き毎月1回開催している。教授会規則により教授会常設委員会として教員資格審査委員会、情報システム企画運営委員会、教務委員会、単位認定委員会、FD委員会、入試委員会、共通科目委員会、新デザイン工学部準備委員会を設置している。一学部一学科のため構成員は同一であるが、学科会議もほぼ毎月1回開催することで教職員間の密な連携体制を確立している。

### 2. 点検・評価

#### 〈デザイン工学部〉

#### ① 効果が上がっている事項

デザイン工学部の専任教員組織はデザイン工学の幅広い教育に対応できる教員からバランス良く構成されている。専任教員数も大学設置基準を上回っており、カリキュラムに即した教育をおこなうのに十分な専門性を持つ教員を確保している。

## ② 改善すべき事項

学部所属の教員数に比して、教授会組織や担任業務などを含む校務に必要な人員が多い。教育の充実や研究活動のさらなる促進のためにも、専任教員の負担を解消するための施策が求められる。

## 3. 将来に向けた発展方策

2017年度よりデザイン工学部は新たに2つの系から構成される新カリキュラムが実施される。これに並行して、建築空間領域所属の教員が順次建築学部へと所属を移し、新カリキュラムに即した新規教員の採用が順次実施される予定である。

現在デザイン工学部では計3名の特任教員（建築空間領域2名、共通系1名）が所属している。その時々の研究・教育上の課題解決に逐次適切に対応するために、有期雇用の特任教員のさらなる活用などを柔軟に活用する方針である。

## (2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

### 評価の視点

- 編制方針に沿った教員組織の整備
- 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
- (修士・博士課程／専門職学位課程)研究科担当教員の資格の明確化と適正配置

## 1. 現状の説明

デザイン工学部には2016年現在、建築空間領域に6名（うち任期付き特任教員2名）、プロダクトデザイン領域に5名、エンジニアリングデザイン領域にはメカトロ組み込み分野4名と生産システム分野4名の計19名の専門科目担当教員と、共通科目を担当する4名の教員が所属し、専任教員数は大学設置基準を満足している。所属専任教員24名（うち任期付き2名）は、教授16名、准教授6名、助教2名によってバランス良く構成されている。

新規の専任教員採用については、領域分野幹事会議と学科会議において承認された教員採用計画に基づいて教員採用委員会を中心に人選をおこない、教授によって構成される教員資格審査委員会の賛成を経て、大学の規定に従って採用が決定される。

全開講科目の担当教員の割り当ては、領域・分野、共通系内での配置をもとに、毎年学科会議で確認・検討を行っている。非常勤教員が担当する開講科目は、各領域・分野と共通系がそれぞれの関連分野に分類され、それぞれの科目に対して専門分野に近い専任教員を世話役として配置されている。新規に非常勤教員を採用する際には科目世話役の意見を反映し、教員採用委員会が公募を実施している。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

デザイン工学部の専任教員数は大学設置基準を満たしており、他学部移籍や退任予定の教員の補充など、新規の採用は年次計画に基づいて着実に実施されている。

### ② 改善すべき事項

デザイン工学部所属の女性の専任教員は2016年現在3名（うち1名特任教員）にとどまっており、男女比の改善が望まれる。

## 3. 将来に向けた発展方策

2017年以降数年にわたり、建築学部へ移籍する専任教員の補充と、退任予定の教員の補充が、新デザイン工学部のカリキュラムをもとに作成された採用計画に沿って、順次実施される予定である。

### (3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

#### 評価の視点

- 教員の募集・採用・昇格等に関する規定および手続きの明確化
- 規定等に従った適切な教員人事

## 1. 現状の説明

新規の教員募集はデザイン工学部教授会による審議を経て、公募により実施される。教員資格審査は大学設置基準、および大学の専任教員人事規定と任用手続き規定に沿って、教員資格審査委員会によって実施されている。専任教員の公募に際しては、学部長室会議、学科会議等での議論を経て、研究分野等の公募要領をデザイン工学部教授会において審議される。

専任教員の昇格については、デザイン工学部内規に従い実施される。年度ごとに、各領域・分野からの推薦を受け学部長が教育・研究業績を確認の上、面談を行い、教員資格審査委員会、教授会の審議を経て実施される。非常勤教員の昇格は大学の非常勤人事規定に従って学部長室会議での確認の上、教授会の審議を経て実施される。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

教員採用における候補者選考方法については、全学的な教員採用手続きの規定化、公開に向けた取り組みと合わせ、本学部においても選考ルールを 2010 年度に規程化した。教員の資質向上への取り組みについては企業等出身の新任教員を積極的に研修に参加させ、最近の大学および大学を取り巻く状況についての理解を促している。

開設時にやや偏りの見られた教員組織の年齢構成であるが、採用計画に従ってほぼ適正な水準まで改善した。2013 年度には 4 人の専門教員を採用し年齢構成のバランスを改善した。この際、女性教員 1 名と外国籍の教員が 1 名が新たに加わった事で、国際化とダイバーシティ豊かな教育研究環境の実現に向けての大きな改善が見られた。

専任教員の昇格の基準と手続きについては学部内に内規を設け、大学の規定に基づいて適切に運用が行われている。教授・准教授数の比率もおおむね適正に維持されており、2014 年には准教授から教授への昇格、2015 年には助教から准教授への昇格がそれぞれ 1 名ずつ規定に従って実施されている。

### (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

#### 評価の視点

- 教員の教育研究活動等の評価の実施
- ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

## 1. 現状の説明

デザイン工学部所属専任教員は毎年度、教育・研究等業績評価シートをもとに自己点検を実施するとともに、学部長がその内容を確認することで、個々の教員の目標と達成度合いの適切さを確認している【資料 3-4-1】。

FD 活動は小規模学部としては活発に行われている。常設の FD 委員会を中心に、学部全体で FD 活動に積極的に取り組んでいる。FD 委員会では本学優秀教育賞への推薦者の選考に当たっているほか、授業改善など様々な FD に関係するテーマについて、デザイン工学部専任教員が参加する研究会を定期的に主催している。この研究会では、各専任教員が研究室や領域・分野を紹介することでお互いの理解を深めたり、ルーブリックやティーチング・ポートフォリオ、オンラインシラバスの改善といった全学的な FD 活動の取り組みについて紹介し、運用方法の改善を議論するといったような活動を行っている。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

FD 委員会を中心に、2015 年度は所属教員による意見交換のための研究会を計 4 回開催した。この研究会の成果として、領域をまたいだ専門性の理解が進み、融合教育に向けた取り組みが活発になっている。また 2015 年度は工学マネジメント研究科と共催で、本学イノベーション推進センターより講師を招き、専任教員と非常勤教員のためのシラバスの書き方についての講演会を開催した。

### ② 改善すべき事項

個々の教員の教育目標と、学部・学科全体としての目標との整合性を確認するような仕組みが存在しない。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ① 効果が上がっている事項

教員の資質向上については、学外研修への教員派遣を引き続き積極的に行うとともに、FD 活動についても継続的实施を組織的に推進する。また海外への教員の派遣を可能とする体制を構築し、国際化の推進や教育の質の向上を実現する。

## 4. 根拠資料

(デザイン工学部)

- 資料 3-4-1: 教育・研究等業績評価シート

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成、実施方針

#### (1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

##### 評価の視点

- 学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位過程の教育目標の明示
- 教育目標と学位授与方針との整合性
- 修得すべき学習成果の明示

#### 1. 現状の説明

デザイン工学部では学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を「社会が求める『あるべき姿（当為）を構築する設計科学技術』を身に付け、実際の社会で付加価値の高いものづくりに貢献する人材を育成するため、デザイン工学部を卒業するまでに、工学的知識と技術を基礎として、ものづくり全体を表現するための1）意匠力、2）構想力、3）計画力、4）設計力といったデザイン能力を身に付けることを教育の到達目標」としている。

この方針に基づいて、教育研究上の目的を「多様な価値観を背景とした現代社会において、意匠力、構想力、計画力、設計力といったデザイン能力に富み、「人」の心に響く魅力あふれたものづくりを志す人材を養成する」と定め、学習・教育目標を以下 A-I の 9 つに定めている。

- A. 幅広い知識を身につけ、地球的・歴史的視点で多面的に物事を考える。
- B. 技術の影響や効果、社会的責任を理解し、倫理観に基づき行動できる。
- C. 数学、自然科学、情報技術を理解し、応用できる。
- D. 科学技術や情報を活かして社会の要求を解決するデザイン能力
- E. 1 つ以上の専門領域の知識・技術を修得して意匠力・設計力を身に付け、ものづくりの場で応用できる。
- F. 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- G. 将来にわたる社会変化を見越してキャリアデザインを行い、学習を自主的・継続的に行う。

H. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、完遂することができる。

I. チームのメンバーやリーダーとして活動し、チーム総体としてより良い成果を出す。

教育研究上の目的およびディプロマ・ポリシーは、本学 WEB サイトに記載、公表している。教育目標 A-I は毎年新入生に配布する学修の手引き（本学 WEB サイトにて閲覧可能）に、教育研究上の目的とディプロマ・ポリシーと共に記載し、新入生ガイダンス等を通じて説明・周知している。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

教育研究上の目的とディプロマ・ポリシーに則って学習・教育目標を定め、これらを大学 WEB サイト等で公表、学生への説明・周知を行っている。

## (2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

### 評価の視点

- 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
- 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示

### 1. 現状の説明

デザイン工学部では「多様な価値観を背景とした現代社会において、意匠力、構想力、計画力、設計力といったデザイン能力に富み、「人」の心に響く魅力あふれたものづくりを志す人材を養成する。」ことをカリキュラム・ポリシーとし、ディプロマ・ポリシーには「社会が求める「あるべき姿（当為）」を構築する設計科学技術」を身に付け、実際の社会で付加価値の高いものづくりに貢献する人材を育成するため、デザイン工学部を卒業するまでに、工学的知識と技術を基礎として、ものづくり全体を表現するための1) 意匠力、2) 構想力、3) 計画力、4) 設計力といったデザイン能力を身に付けることを教育の到達目標として定めている。

デザイン工学部の授業科目は、「共通教養科目」、「共通基礎科目（サイエンス科目、エンジニアリング科目）」、「共通専門科目」、「専門科目」に大別される。「共通教養科目」は、最先端の知識を吸収し、実社会において海外の企業や外国人技術者と接していく上で必要不可欠である外国語科目、現代の技術者に求められる高い倫理

観や人文社会科学系の素養を身につけるための一般教養科目、また自分自身の将来のキャリアデザインを見据えるためのキャリア教育科目を設置している。「共通基礎科目」には専門科目を学んでいく上で基礎となる能力を養うために、数学や物理などのサイエンス科目と情報処理といった工学基礎を学ぶエンジニアリング科目を配置している。それぞれの科目に必修科目が指定されており、実践に耐えうる学力を養成する。

「共通専門科目」にはデザイン工学部を構成する 3 領域 4 分野の一体的な教育であるデザイン教育を培うべく、分野を横断する教育の核となる共通専門科目を配置している。デザイン系の基礎科目を必修科目とするほか、専門知識に対する理解を深め、総合力を発展させる機会を充実させている。「専門科目」は各領域の教育方針に沿った専門科目が配置されている。基礎的な科目を低学年次に、専門性や応用性の高い科目を高学年次に学ぶことで、学習の積み重ねが効果的に発揮されるようなカリキュラム構成をとっている。4 年次には、まで養ってきた総合的な学力を集約するものとして、総合プロジェクトを必修科目として配置している。

これら全開講科目の科目区分、必修・選択の別、単位数はそれぞれ全学生に配布される学修の手引きの科目配当表・科目配置票、および大学 WEB サイト上で公開されているオンラインシラバスに明示されている。

### 3. 将来に向けた発展方策

デザイン工学部では 2017 年度より始まる新カリキュラムにおいて科目区分、必修・選択の別、科目ごとの単位数も見直される予定である。これに併せてカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーは、アドミッション・ポリシーと共に改定される。

- (3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、  
大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

#### 評価の視点

- 周知方法と有効性
- 社会への公表方法

#### 1. 現状の説明

デザイン工学部の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、年度ごとの学修の手引きの記載内容の改訂や開講科目の変更に際し、学科会議等を通じて毎年内容の確認を行っており、専任教員の理解は高い。

全入学生に配布される学修の手引きに教育理念、到達目標と学位授与方針とならんでカリキュラムマップを記載し、デザイン工学部の教育目標と全開講科目との関連性を明示している。これらは入学時のガイダンス等を通じて新入学生に周知されており、学生の認知度も高い。

2016年度より、デザイン工学部の開講科目はすべてオンラインシラバス上、当該科目が教育目標のどの項目に当てはまるかを記載している。学生はこのオンラインシラバスを参照することで、履修科目が教育目標のどの項目に当てはまるかを理解しながら、履修計画を立てることができる。また担当教員もカリキュラムとの整合性を意識しながら科目の達成目標や内容の構成を図っている。

この学修の手引きおよびオンラインシラバスは大学 WEB サイト上でも公開されており、大学構成員だけでなく、広く社会に公表されている。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針はすべて教員・学生に周知されると共に、大学 WEB サイトを通じて社会に公開されている。

## (4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

### 1. 現状の説明

デザイン工学部では学部長室会議や学科会議等を通じて、毎年カリキュラムの内容を検討する機会を設けており、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について議論している。また 2015 年度より教授会委員会として新デザイン工学部準備委員会を設置し、新カリキュラムの編成・実施方針を詳細に検討し、進捗内容を学科会議や教授会で報告している。

### 3. 将来に向けた発展方策

2017年度の新カリキュラム導入に際し、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を新たに改訂する予定である

#### 教育課程、教育内容

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

#### 評価の視点

- 必要な授業科目の開設状況
- 順次性のある授業科目の体系的配置
- (学士課程) 専門教育・教養教育の位置づけ
- (修士・博士課程) コーチワークとリサーチワークのバランス

#### 1. 現状の説明

デザイン工学部の教育課程は、「産業界と密に連絡を取りながらカリキュラムを構築し、実習などを通じて社会と人にふれあい、人と地球にやさしいデザインを追求する実践教育の徹底」を行っている。また様々な分野にまたがる協力・協働と、社会的・産業的な幅広い視点からのデザイン能力を身につけるため、以下の3つの教育領域の下に4つの分野を置いて教育課程を編成している。

① 建築・空間デザイン領域

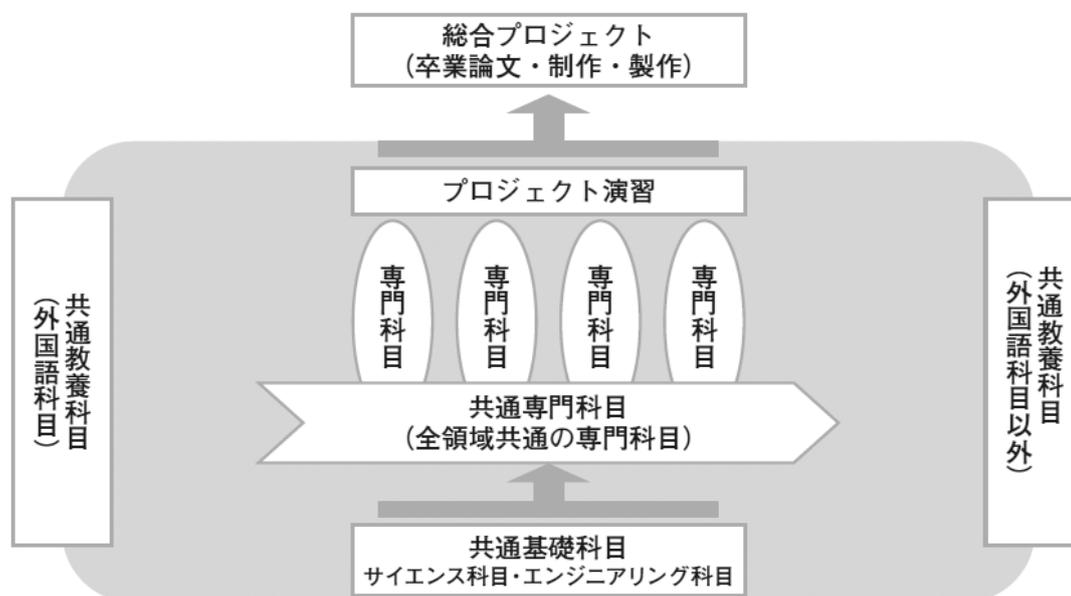
② エンジニアリングデザイン領域 (メカアトロニクスシステム・組み込みソフトウェア分野)

〃 (生産システムデザイン分野)

③ プロダクトデザイン領域

この幅広い領域のどこに焦点を当てて学修し、将来何の仕事に携われるなど技術者としての職業意識を養い、履修指導をしている。履修にあたり、学生自身の将来像を意識して学修できるように、デザイン工学を俯瞰的に学びつつ、同時に1年次から領域のカラーを持たせたカリキュラム構成としている。また、卒業後の進路に対応した学修スケジュールの基本と成る履修モデルの提示を行い、養成する人材を明確にするとともに学生が主体性を持って4年間の学修計画をたてられるよう配慮している。

図1 デザイン工学部の教育課程の編成（学修の手引きに記載）



共通教育においては、今日的な問題に対する多様なアプローチを構築する能力を醸成するために3つの共通教育科目群を設置している。具体的には、人間・社会を理解するための科目を中心とした「共通教養科目」、工学の基礎知識を習得するためのサイエンス科目とエンジニアリング科目から構成される「共通基礎科目」、デザインと工学の融合教育培うための分野を横断する「共通専門科目」である。

英語科目は共通教養科目の中に位置づけられ、卒業要件において最低8単位の取得が義務づけられている。デザイン工学部の英語科目においては、英語をコミュニケーションツールとして十分に運用し、実践に活用する能力を獲得することを最終到達点としている。1～2年次に開講される科目は、基礎的な文法の確認、実用的な語彙の習得、実践的な読解力・リスニング力の強化などを通じ、総合的な英語力の向上を目指している。3年次以降は、ライティングやプレゼンテーションなど特定のスキルやトピックに焦点を絞った科目を開講している。また、デザイン工学部の英語科目の象徴の一つがTOEIC-IPテストの活用である。デザイン工学部の入学生には、入学時より定期的にTOEIC-IPテストの受験を義務付けている。スコアは、一部科目の定期試験そのものに使用したり、習熟度クラス編成のクラス分けの判定材料に使用している。

専門科目は各領域・分野の教育内容に従って構成されている。

- ・ 建築・空間デザイン領域

建築・空間デザイン領域においては、身近な空間から建築や都市に連続する生活空間について、物理的な形態、環境や安全性の確保、そこで展開する活動、背後にある社会的経済を結び付け、いかにデザインするかを段階的に教育している。授業には、講義・演習・実験があり、特に専門科目の演習には、実務で活躍する多彩な外部講師を招いている。

・エンジニアリングデザイン領域～メトロニクスシステム組込みソフトウェア分野～

エンジニアリングデザイン領域におけるメカトロニクスシステム・組込みソフトウェア分野においては、システム開発においてハードウェアの機構、回路、制御方法などを体系的な図でその「モデル」を表現し、理論的な検討を重ねながら設計する。ソフトウェアへの要求や構造も体系的な図でその「モデル」を表現し、プログラムをつくって最終的な「もの」をつくるプロセスを教育している。

・エンジニアリングデザイン領域～生産システムデザイン分野～

エンジニアリングデザイン領域における生産システムデザイン分野においては、基礎科目（機械、電気・電子、情報、材料）をベースに、CAD/CAM（コンピュータ援用設計/加工）および CAE（コンピュータ援用解析）による機械設計、最新 NC（数値制御）による形状加工、仕上げ・組み立て、3次元計測による CAD へのフィードバック等金型製作に必要な知識および実学を中心に教育している。

・プロダクトデザイン領域

プロダクトデザイン領域においては、調査・企画から設計・製造、宣伝・販売までをトータルに考え、製品の魅力を高める能力の養成を目的としている。そのために幅広い工学系の専門科目で習得した知識を基盤として、論理的なデザイン手法、プロセスの習得を行い、総合的なアプローチのできる人材育成のための教育を実施している。

### 3. 将来に向けた発展方策

2017年度の新カリキュラムでは共通科目と専門科目の位置づけを見直し、共通専門科目を廃止する予定である。これまで共通専門科目として開講されていた一部の科目は共通基礎科目に編入される。また共通基礎科目にはデザイン科目というカテゴリー

を新設し、デザイン教育の基礎としての共通基礎科目の位置づけを明確にすることを目指す。

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

#### 評価の視点

- (学士課程) 学士課程教育に相応しい教育内容の提供
- (学士課程) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容
- (修士課程) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供
- (専門職学位課程) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供

#### 1. 現状の説明

デザイン工学部の教育課程ではデザインと工学の融合が目指されている。初年次にはデザイン基礎教育を通じて、学生にデザインすることの意味をインプリンティング（刷り込み、imprinting）し、この基礎教育をベースにして専門教育を積み上げていくことで、デザインと工学の融合を図っている。このようにデザインを基礎とした専門教育を学ぶことを通じて、多様なキャリアプランの中から学生自らが自身の適正にあったキャリア選択をおこなうことができるようになることが意図されており、2-3年次のキャリア科目（共通教養科目）における演習を中心に「社会および産業界と密に連携を取った体験学習」をおこなっている。

デザイン工学部では高大接続の取り組みとして、以前より専任教員による高校への出張講義を実施しているが、2016年度よりスーパーサイエンスハイスクールに指定された高校や、本学への入学者の多い高校を中心に所属専任教員を派遣し、出張授業や高大連携の働きかけを強める取り組みを始めた。またデザイン工学部では、アクティブ・ラーニング科目を積極的に開講し、受動的な講義から能動的な学修の転換を図っている。

また初年次教育においては、1年前期に共通専門科目「総合導入演習」を必修科目として開講し、大学の学びに必要なリテラシー一般の教育を行っている。同科目はデザイン工学部の専任教員全員が担当し、少人数グループによるディスカッションやライティング指導、芝浦工業大学卒業生（作家の中村航氏）による講演を通じたキャリア教育、さいたま市産業地域振興課と連携した地域指向の内容などを取り入れている。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

2016 年度に開講された科目全 183 科目中、学習者の能動的な学修への参加による授業が大部分をしめるアクティブラーニング科目は 48 科目、同様の学修への参加がおおむね半数を超える科目が 29 科目、1 コマ分以上は同様の学修への参加が取り入れられている科目は 70 を占め、全科目中 80%が何らかの形でアクティブ・ラーニングを取り入れている。

### ② 改善すべき事項

高大連携への積極的な取り組みを始めているが、具体的な連携の事例はまだ少数にとどまっており、今後はその拡大が望ましい。

## 3. 将来に向けた発展方策

2017 年度より始まる新カリキュラムにおいても現行課程の基本的な構造は維持しつつ、新しい基礎科目群としてデザイン系科目が導入するなど、よりデザイン工学に特化したカリキュラムが提供される予定である。新カリキュラムでは演習科目が増え、アクティブ・ラーニング科目も増加する見込みである。

## 教育方法

### (1) 教育方法および学習指導は適切か。

#### 評価の視点

- 教育目標の達成に向けた授業形態（講義演習実験等）の採用
- 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
- 学生の主体的参加を促す授業方法
- （修士博士課程）研究指導計画に基づく研究指導学位論文作成指導
- （専門職学位課程）実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導

### 1. 現状の説明

デザイン工学部では、以下の 9 つに区分された学習教育目標に対し、それぞれ異なる授業形態を中心とした科目を開講している。

A. 幅広い知識を身につけ、地球的・歴史的視点で多面的に物事を考える。

- B. 技術の影響や効果、社会的責任を理解し、倫理観に基づき行動できる。
- C. 数学、自然科学、情報技術を理解し、応用できる。
- D. 科学技術や情報を活かして社会の要求を解決するデザイン能力
- E. 1つ以上の専門領域の知識・技術を修得して意匠力・設計力を身に付け、ものづくりの場で応用できる。
- F. 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- G. 将来にわたる社会変化を見越してキャリアデザインを行い、学習を自主的・継続的に行う。
- H. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、完遂することができる。
- I. チームのメンバーやリーダーとして活動し、チーム総体としてより良い成果を出す。

このうち A から C の目標達成に向けては、共通教養（外国語以外）および共通基礎系の講義科目を中心に、D から I の目標達成は共通専門および専門科目と、キャリア科目・外国語科目における演習科目をコアに、理論的な説明を行う講義科目をバランスよく配置した科目群による教育を行う。開講科目、特に演習科目の多くはアクティブ・ラーニング科目であり、学生の主体的な学びを促すための工夫が施されている。特に唯一の実験科目である「デザイン製作実験」においては、現実的な課題解決のために自ら作り、試行・改善するための教育を行っている。

デザイン工学部では、履修上限を年間 49 単位、各期 25 単位以下に設定している。ただし、直前期に GPA3.0 を超える優秀な成績を残した学生については 28 単位までの履修を認めている。学生が各期上限の 25 単位の履修を希望する場合、学年担任による許可を得る必要があり、無理な履修を事前に防ぐ仕組みが導入されている】。

新入生に対しては、専任教員と上級生が学習や履修に関わる様々な相談を受け付けるアドバイザーとして配置され、新入生が学習・履修を無理なく行うためのサポートを実施している。また必修や基礎科目を中心に、欠席や問題の多い学生を適宜学年担任に対し通知するなど、教員間で積極的な連携を取ることで早めの指導を実現している。その上で、各期に成績を確認、成績不振の学生をリストアップし、学年担任が逐次学習や履修についての面談を実施している。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

各種別の科目が適切なバランスで開講され、多くのアクティブ・ラーニング科目によって、学生の主体的学びが実現されている。また履修上限の厳格な運用や学年担任による履修指導を通じ、学習を無理のないスケジュールと内容で実現するための仕組みが整備されている。

## (2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。

### 評価の視点

- シラバスの作成と内容の充実
- 授業内容・方法とシラバスの整合性

### 1. 現状の説明

デザイン工学部で開講する科目はすべて、大学 WEB サイト上でフォーマットに則ったシラバスを公開している。シラバスでは目的や達成目標の他、15 週の授業計画と予習復習の内容、評価方法と基準など、受講に際して必要十分な情報の記載が為されている。

オンラインシラバスは毎年、担当教員が確認の上アップデートすることが制度化されており、全学的に毎年記載項目の変更等が行われている。これらの変更に対応し、さらに充実したシラバスの作成を促すため、デザイン工学部所属の全教員に対してハンドブックの配布し説明会を実施するなどの取り組みを積極的に行っている。

### 2. 点検・評価

#### ① 効果が上がっている事項

原則として全開講科目のシラバスが大学 WEB サイト上に公開され、学内のみならず、学外からも科目の詳細を確認することが可能になっている。

#### ② 改善すべき事項

一部科目でオンラインシラバスの公開が遅れたり、公開されていないケースがあるが、シラバスの公開と内容の確認、担当教員への連絡をおこなうチェック体制の確立が必要である。2016 年度より、英語版シラバスの公開を進めているが、全 182 科目中 116 科目の公開にとどまっている。今後は、100 パーセントの公開に向けての担当教員へ働きかけと、英語化のサポート体制の整備などが必要である。

### (3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

#### 評価の視点

- 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
- 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
- 既修得単位認定の適切性

#### 1. 現状の説明

成績評価はシラバスに評価基準を表示し、試験、レポート、成果物等による適切な評価を実施している。成績は優（80点～100点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（0点～59点）とし、60点以上をもって合格（単位取得）とする。成績通知書には優、良、可、不可をそれぞれ A、B、C、D と表示する。修得した成績のうち、「A」評価を4点または3点、「B」評価を2点、「C」評価を1点、「D」評価を0点として、各科目の単位数に乗じて得た積（Grade Point）の合計を、登録科目の総単位数で割って算出した数値を GPA（Grade Point Average）と定義し、成績通知書に記載している。成績に基づく分野分け、給付奨学金対象者の決定の際の順位決定には GPA 値を採用している。

学外単位の認定や海外研修プログラム参加による単位認定については、それぞれ学修の手引きに記載された条件に則って、教務委員会が認定の妥当性を審議し、認定が妥当である場合は卒業要件との対応について提案を行い、教授会の議を経て決定する。

#### 2. 点検・評価

##### ① 効果が上がっている事項

規定に従って成績評価と単位認定が適切におこなわれている。

### (4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

#### 評価の視点

- 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## 1. 現状の説明

デザイン工学部では全開講科目で学生による授業評価アンケートを実施し、結果を担当教員にフィードバックすると共に本学 WEB サイト上で公開している。また教員の資質向上や授業改善のために FD 委員会を中心としたさまざまな取り組みを行っている。定期的開催される専任教員による FD 研究会においては、それぞれの領域・分野、研究室、担当科目の取り組みと課題について教員間で情報を共有し、改善の検討などを行っている。新任の専任教員は学部として積極的に学内外の FD 研修へ派遣し、授業改善の手法を学ばせるとともに最近の大学および大学を取り巻く状況についての理解を促している。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

2015 年度は計四回、デザイン工学部所属専任教員による FD 研究会が実施された。

## 成果

### (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

#### 評価の視点

- 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
- 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)

## 1. 現状の説明

デザイン工学部では大学のシステムを利用し、学生の自己評価とその確認を促すために 1 年前期必修の総合導入演習と、4 年総合プロジェクトのためのルーブリックを開発し、定期的に授業において入力を課している。

卒業前に実施している満足度についてのアンケートでは、学部教育を通じて得た知識や能力についての質問 6 項目（「学部教育を通して、工学に必要な基礎知識を身につけることができた」「学部教育を通して、工学に必要な専門知識を身につけることができた」「学部教育を通して、大学入学時に比べて、論理的思考力と解析能力、総合的問題解決力が向上した」「学部教育を通して、大学入学時に比べて、広い視野と柔軟な適応力を身につけることができた」「学部教育を通して、大学入学時に比べて、コミュニケーション能力が向上した」「学部教育を通して、大学入学時に比べて、も

のごとに自発的に取り組もうとする自主性が向上した」)に対して、2014年度、2015年度卒業の学生の8割強が肯定的な回答を示しており(2015年度:十分34%、やや十分46.9%/2014年度:十分38.6%、やや十分42.8%)、十分に高い自己評価を下していることが見て取れる。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

上記満足度アンケートの結果が2012年度卒業の第1期生においては、十分22.9%、やや十分45.8%にとどまっていたことを考慮すれば、デザイン工学部の教育が開設以降改善への努力を重ねてきた結果が、最近の学生の満足度の向上につながっていることが確認できる。

### ② 改善すべき事項

卒業後の自己評価を確認するためのアンケートや追跡調査は現在行われておらず、今後の実施が望ましい。

## (2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。

### 評価の視点

- 学位授与基準、学位授与手続きの適切性
- (修士・博士課程、専門職学位課程)  
学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策

### 1. 現状の説明

デザイン工学部ではディプロマ・ポリシーに則って適切な卒業要件が設定されており、大学の規定に従って、学位授与手続きが運用されている。2016年度入学生の卒業要件においては、総取得単位数130単位とし、各科目群より以下の表に記された単位数を満たすことが求められている。

開講科目の見直しなど、卒業要件に関わるカリキュラム上の変更が行われた際には、同時に卒業要件についても検討が加えられ、変更が必要であると教務委員会が認めた場合には、教務委員会の提案を教授会議が議決することで卒業要件を改訂することができる。

(1) 2016年度生の卒業要件表（卒業に必要な単位数の下限）

	共通教養科目		共通基礎科目				共通専門科目		専門科目		卒業の要件
	外国語を除いた共通教養科目	外国語科目	サイエンス科目		エンジニアリング科目						
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	計		
デザイン工学科	20	10	6	6	8	10	12	24	6	28	130

※外国語科目は、10単位中8単位は英語科目で取得すること。

図 4-6 2016年度入学生の卒業要件表（2016年度学修の手引き P20 より）

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

デザイン工学部開設以降、複数回にわたり開講科目の見直しが行われ、それに併せて卒業要件の詳細が変更されている。

### ② 改善すべき事項

現在 130 単位を必要とする卒業要件であるが、学内外からの編入や、海外提携校との単位互換をよりスムーズにするため、本学他学部（工学部）や国内外の一般的な指針に沿う 124 単位を卒業単位とすることが望ましい。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ① 効果が上がっている事項

2017 年度にスタートする新カリキュラムにおいては、卒業要件の総取得単位数は 124 単位に設定される予定である。

## 第 5 章 学生の受け入れ

### (1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

#### 評価の視点

- 求める学生像の明示
- 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
- 障がいのある学生の受け入れ方針

#### 1. 現状の説明

デザイン工学部では入学に当たり必要な知識を示すために、以下のアドミッションポリシー（求める人物像）を定め、大学 WEB サイトおよび入試要項に掲載している【資料 5-1-1】。

- 1) 十分な基礎学力に加えて、21 世紀における社会と産業が求める技術者を目指す。
- 2) 創造的な発想と、問題発見・解決能力、そして総合的な視野に立ち自律的に思考できる素養を持つ。
- 3) 多彩な才能と可能性を秘め、社会、産業、個人の生活・関心の変化に対して敏感に適応できる。

障がい学生の受け入れについては、大学の方針に従って積極的に取り組んでおり、出願希望者について、あらかじめ入試課に相談する旨を入試要項目に明記し、受験上の配慮が可能な出願希望者と学科が面談して、入学後の支援措置について協議している（入試課開設以来 2 名の学生（2013 年度に 1 名、2016 年度に 1 名）がそれぞれ入学し、順調に修学を続けている）。

#### 2. 点検・評価

##### ① 効果が上がっている事項

アドミッション・ポリシーは大学 WEB サイトおよび本学部が実施するすべての入試要項目に明記しているため、本学部の学生受入れに係る高大接続方針が受験生に浸透してきたと考えている。また、障がい学生の受け入れは順調で、入学した学生達は問題なく修学を続けており、2013 年度入学生については正規の修学年数（2017 年 3 月）で卒業見込みである。

##### ② 改善すべき事項

アドミッション・ポリシーの中に、各選抜方法の重みづけ（配点等）が明記されていないため、学部レベルにおいて、この部分は何らかの表記が必要である。

尺度にすべて合致しているわけではないため、選抜方法のさらなる見直しが必要である。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ① 効果が上がっている事項

学部規模が小さいこともあり、障がい者の支援についてはメンタル部分を含めて手厚い支援体制が整備されている。

#### ② 改善すべき事項

アドミッション・ポリシーにおける各選抜方法が「高等学校における身につけるべき能力」を評価する尺度にすべて適切に対応しているわけではないため、今後「思考力・判断力・表現力」などを総合的・多面的に評価する選抜方法の検討が必要である。

## (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

### 評価の視点

- 学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
- 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性

### 1. 現状の説明

学生募集については、入試課と連携し、オープンキャンパス、研究室見学会、高校方訪問、WEB サイトをはじめとする各種媒体展開などにより多彩な募集活動を行っている。またデザイン工学部の選抜方法は、前出のアドミッション・ポリシーに基づき、多彩な才能と可能性を持つ学生を受け入れることを目的に 2016 年現在、①数学、理科、英語等の学力を判定する一般入試（前期日程、全学統一日程、後期日程、センター利用方式）、②高校生活を通じた継続的な学力を総合的に判定する推薦入試（併設校、指定校）、の二つの入試形式の他、外国人留学生を対象とする特別入試に種別される多様な入学試験を実施している。

選抜方法については、工学部、システム理工学部と同様、入試要項や大学の WEB サイトで内容を公表し、周知を図っている。また合否の判定については、学部長の他、入試委員と学部が選出する複数の構成員で「合否判定会議」を組織し、合格最低点、補欠範囲等を協議しながら合格者を決定することにより、透明性、公正性を担保している。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

上記の取り組みの積み重ねにより、一般入学試験における志願者状況以下の通りおむね順調に推移しており、学部の教育理念や内容が社会に認知・評価されてきた証左と考えている。

＜過去 5 年間のデザイン工学部志願者数の推移＞

- ・ 2012 年： 3,165 名
- ・ 2013 年： 3,546 名
- ・ 2014 年： 4,169 名
- ・ 2015 年： 4,164 名
- ・ 2016 年： 3,845 名

### ② 改善すべき事項

現在の選抜方法の多くは学力試験（筆記試験）に頼っており、今後「総合的・多面的」な評価の観点を取り入れた選抜方法の検討が必要である。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ① 効果が上がっている事項

学生募集および入学者選抜方法の実施計画などの判断・実施にあたり、学科規模もあるが構成員の意思の疎通が図りやすく、学部一致体制が形成されている。また 2017 年度より、大学の方針に則って、外国語検定試験を利用した「多面的」要素を取り入れた入試を実施する。

### ② 改善すべき事項

来年度におけるデザイン工学部の再編に伴い、学科およびコースについての受験生への周知方法についてこれまで以上の広報・情宣活動を展開する必要がある。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

#### 評価の視点

- 収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
- 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応

### 1. 現状の説明

入学定員の一学年あたり 140 人に対し、2016 年度入学者数は 172 人であり、定員に対する比率は 122.8%である。入学者数は 13 年度の 176 名を頂点に、14 年度および 15 年度まで漸減傾向（157 名、149 名）を示しており、4 学年全体も定員超過率は 115%前後にとどまっていた（2014 年：114%/2015 年 116%）が、2016 年度現在の在籍学生数は 660 名と、定員（560 名）に対して 117.9%と、漸増の傾向にある。

### 2. 点検・評価

#### ① 効果が上がっている事項

開設より一貫して定員を超えており、十分な数の学生数を確保している。16 年度は増加に転じ定員の 120%を超える入学者を受け入れることになったが、在籍学生数全体としてみれば 120%を割っている。

指定校推薦制度を利用した入学者数は 2013 年度以降 25%から 40%の間で比較的安定的に推移しており、2016 年度は学部全体として 53 名（定員に対して 37.9%）が入学した。

#### ② 改善すべき事項

現状で定員に対して 120%を下回っている在籍学生数であるとはいえ、当面は定員に対する入学者比率を引き下げの努力が必要である。他方において、今後の少子化傾向を踏まえ、定員充足への努力も平行して行う必要がある。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ① 効果が上がっている事項

他の学部 zu 若干収容定員超過率は高いが、補助金不交付となるような水準ではなく、これまでの定員管理等の実績から来年度においては、定員増（100名→160名）が認められた。

## ② 改善すべき事項

2017年度よりデザイン工学科の入学定員は160と増員されると同時に、入試についても現行の3領域4分野から二つの系へと再編される。デザイン工学部としてはデザイン工学部の名称に含まれる「デザイン」の訴求力を活かし、これまでの人気を維持してゆくために、カリキュラム改編による他学部類似学科との差別化、大学内での役割分担、棲み分けの明確化を行い、またこれを対外的に積極的に広報し、十分な入学志願者を確保する努力が肝要である。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

### 1. 現状の説明

デザイン工学部では、入学試験の方式、入学試験方式別の募集人数、および入学試験の合否判定について、アドミッションセンターおよび入試課より提供されるデータ等ベースとして入試委員会を中心に検証・検討を行ない、年度毎に教授会で審議・決定している。入試の結果については選抜方法ごとに学部長室会議、学科会議等で報告を行い、検証を行っている。

### 2. 点検・評価

#### ① 効果が上がっている事項

これまでの志願者状況および偏差値等からこれまでの学生募集および入学者選抜は、大学の基本方針と学部のアドミッション・ポリシーに則って、適切に検証され、公正かつ適正に実施されている。

#### ② 改善すべき事項

現在のところ特筆すべき事項はなし。

### 3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

これまで、入試課およびアドミッションセンターと協調・協働して行なってきた入学者選抜の検証や合否判定の検証等は有用。

② 改善すべき事項

2017年度の新カリキュラム導入後も引き続き、入試委員会を中心にアドミッションセンターや入試課と連携・協働し、公正かつ適正な学生募集と入学者選抜を実施してゆく。

## 第 6 章 学生支援

- (1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう  
学生支援に関する方針を明確に定めているか。

### 評価の視点

- 学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化

### 1. 現状の説明

アドミッション・ポリシーの中に「デザイン工学部のすべての教員は学生が満足して学習できるよう最大限努力します」と明示し、学生支援への姿勢を明確に打ち出している。これらはすべて HP 上にも公開され、学生たちに周知している【資料 6-1-1】。この実践のため、大学として教育環境を整えると共に様々な支援活動を行っている。各学期のはじめには、学年毎のガイダンスを学年担任が実施、修学に関わる様々な指導や生活支援の仕組みを説明するほか、領域・分野毎にも適宜実施することで、安定した学生生活を送れるように努めている。履修・登録・学費・学生生活支援および進路支援については学生課・学生センターおよびキャリアサポート課・キャリアサポートセンターが連携し、教職一体となった学生支援が広く厚く行われている。また、HP の充実そのものも強力な修学支援として機能している。

### 2. 点検・評価

#### ① 効果が上がっている事項

上記指針の一環として、デザイン工学部ではアドバイザー制度（教員 1 名に学生 8 から 10 名）を設けて、専任教員が 1 年生に対する学業等に関するアドバイスを行う活動を実施しているが、2013 年度からは上級生の中から学生アドバイザー（各領域、分野とも 2 年生 4 名、3 年生 2 名、4 年生 1 名程度）を募り、アドバイザー制度の充実を図っている。学生同士メールアドレス交換などをおこない、特に大宮キャンパスでの過ごし方や芝浦キャンパスへの移るときの段取り等、教員では分からない学生固有の心配事などについて相談を受けている。学生アドバイザーからは相談内容についての報告を 1 年担任に対して適宜行うように依頼し、前期終了時に最終的な報告を受けている

#### ① 改善すべき事項

学生が学修に専念するためには、しっかりとした教育研究環境の下で、適格なカリキュラムとその適正な実施、さらに学生たちがそのカリキュラムの意味を理解し、確実に履修するためのわかりやすい履修登録システムの構築や無理のない効率的な時間割の作成、オフィスアワーの明確化および信頼性の高い試験の実施と成績の公開が必要である。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ① 効果が上がっている事項

学生アドバイザー制度が機能しているため、今後一層学科教員と連絡を密にしておくことで、学生に安全・安心な学生生活を送るための支援の拡充が期待できる。

#### ② 改善すべき事項

前項で掲げた改善事項を着実に実施していくほか、他キャンパスに整備されているピアスペースなどの補助的支援機能の芝浦キャンパスへの設置について、検討・実現を図りたい。

### 4. 根拠資料

(デザイン工学部)

- 資料 6-1-1 : 大学 WEB サイト / デザイン工学部 - 3 つのポリシー  
[http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering\\_and\\_design/policy.html](http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering_and_design/policy.html)

## (2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

### 評価の視点

- 留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
- 補修・補充教育に関する視点体制とその実施
- 障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性
- 奨学金等の経済的支援措置の適切性

### 1. 現状の説明

デザイン工学部では、留年者や成績不振者等の特に指導が必要な学生に対してはクラス担任が積極的に個別面談を行い、必要に応じて保証人を交えた話し合いの機会を

設けている。休学や退学希望者については、必ず学年担任が面談して状況や本人・保証人の意思を確認の上、休学・退学を許可する仕組みを取っている。

リメディアル教育についても積極的に取り組んでおり、プレイスメントテストによる習熟度別クラス編成を英語・数学・物理で実施し、一定の水準に満たない学生については特修クラス（通常 90 分の授業を 180 分掛けて行うクラス）に配当し、対応に当たっている。これら 3 つの科目群では正課外の学修サポート活動の充実を図っており、大宮キャンパスに設けられたデザイン工学部学習サポート室を中心とし、正課授業と学習サポートとの対応づけなど、きめの細かい学修支援を行っている。

障がい学生の受け入れに際してはクラス担任などが、学生本人や必要に応じて保証人とも面談を行い、配慮が必要な事項等の確認を行ったうえで、学部長室会議や学科会議を通じて対応方針の確認・授業担当教員への周知を行っている。このほか、奨学金等の経済支援措置については、前述の「大学全体」の現状説明と同様である。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

2014 年度からは、全専任教員が全学生の授業ごとの出席記録などの修学状況を大学のイントラネット内で確認できるシステムを導入した。これにより、以前は成績不振者としてピックアップされるまで顕在化しづらかった学生に対し、学期中に学生に話を聞くような対応が可能となった。

### ② 改善すべき事項

2015 年度より大宮と芝浦の 2 つのキャンパスをつなぐ試みである「芝浦デー」を開始したが、一部領域での実践に限定され、学部全体としての活動とはなっていない。イベント自体が十分浸透しているとは言いがたく、今後はイベント内容の見直しを含め、全領域・分野への周知や参加の呼びかけなどの対応が求められる。

## 3. 将来に向けた発展方策

教員と学生課による連携を通じた学生の修学支援を行うしくみは、過不足なく機能していると考えられるが、2 つのキャンパスに分かれた教育環境が大きな障壁になっており、この障壁を越える仕組み作りが求められる。とくに大宮キャンパスにおいてデザイン工学科 1、2 年次開講科目の時間割編成には問題が多く、必修科目の再履修

が難しい時間割構成が過去の事例として存在した。現在では慎重に時間割を検討することでそのような問題を未然に防ぐ努力を行っているが、今後は大学全体で、時間編成、教室利用を考えるべく協議を行ないながら一層の効果的な施設利用計画立案を計ることが必要である。

教員、および学生アドバイザー制度により、クラス担任以外に初年次学生のケアを行う教員や上級生をおくことで、より木目の細かい学生支援を目指している一方、クラス担任との間で役割分担が不明確な点がある。現在デザイン工学部の1、2年次の学生は大宮キャンパスで授業を受けているが、授業時間以外にも芝浦キャンパスに研究室を持つ専任教員との間で十分なコミュニケーションを保つための一層の取り組みが必要である。

### (3) 学生の生活支援は適切に行われているか。

#### 評価の視点

- 心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮
- ハラスメント防止のための措置

#### 1. 現状の説明

デザイン工学部では学年担任、教員アドバイザー、学生課の連携を通じて積極的な学生生活支援を行っている。2014年度より学生・教職員相談室と連携し、1年前期必修授業内で新入生向けのメンタルケア授業を実施し、学生・教職員健康相談室の気軽な利用を呼びかけている。また3-4年生が修学する芝浦校舎においては、主に学生・教職員健康相談室を通じた個別対応によって学生からの相談に応じている。このほか、安全・衛生への配慮およびハラスメント防止のための措置については、前述の「大学全体」の現状説明の内容により取り組みを行なっている。

#### 2. 点検・評価

##### ① 効果が上がっている事項

2016年度からメンタルケア授業中に実施するアンケート結果を大学所属の専任カウンセラーが分析し、1年担任に報告している。この報告をうけて担任がケアの必要な学生の学生相談室への誘導を行うなど、学部と学生相談室との連携を強化している。

##### ② 改善すべき事項

3・4年次が履修する芝浦キャンパスに、ピアスペース機能がないため、設置の検討が必要である。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ① 効果が上がっている事項

メンタルケア授業およびアンケートの継続実施により、問題を抱える学生の早期発見等のノウハウの蓄積が期待される。

#### ② 改善すべき事項

グローバル化推進のための環境整備として、学生・教職員健康相談室に英語ができるインターカーの配置が必要である。

#### (4) 学生の進路支援は適切に行われているか。

##### 評価の視点

- 進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施
- キャリア支援に関する組織体制の整備

#### 1. 現状の説明

キャリア支援に関する組織は、学部の就職担当教員、キャリアサポート課およびキャリアサポートセンターが三位一体となってバックアップ体制を構築している。キャリア教育は、キャリアサポート課が実施する各種支援ガイダンスのほか入学時に配布する「学修の手引き」中にキャリア系科目について節を設けて、教育プログラムとキャリア教育の必要を説明している。また正課科目として「キャリアプラン」、「キャリア・デザイン」の2科目を開講し、「芝浦工大通論」を加えた3科目を共通教養科目のキャリア系科目に指定、学生に履修を推奨している。

デザイン工学部は実務出身の専任教員が多いこともあり、通常の授業の中でもキャリアに結びつく授業内容を積極的に取り入れており、自分の実体験に基づく話のほかにも本学出身の方を含む実務者を特別講師に招くなどしてより現実的なキャリア教育にあたっている。導入教育から、働くこと、特にエンジニアとして働くことについて自ら考察したり、「会社・企業とは何か」といった課題についての講演を聞いたりしながら、グループワークを通して学生が自ら調べ、考える教育を実施している。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

実践的なキャリア教育を通じて就職に対する知識を増やすと共に心構えを身につけるという効果があがっていると考えられる。学部全体で高い就職率を維持しており、プロダクトデザイン領域を中心にデザイン職へ就職する多くの学生を輩出するなど、キャリア教育は着実に成果をあげていると言える。また、内定先が多様となり、たとえば公務員や金融などに内定先が広がっているという点もキャリア教育の成果と考えている。

### ② 改善すべき事項

現在のキャリア教育および支援体制が相応の成果を上げており、喫緊に改善すべき特筆事項はなし。

## 3. 将来に向けた発展方策

現在実施しているキャリア教育の取り組みをより拡充するとともに、歴史が浅い学部ということもあり、今後 OB とのつながりを積極的に進めていく。